

答え合わせ・解説

問1	答え 1 新潟県	新潟県は日本を代表する「米どころ」であり、広大な越後平野を中心に大規模な稲作が行われています。全国的に野菜や畜産の産出額が伸びている中でも、新潟県は依然として農業産出額全体に占める米の割合が突出して高いという、水田単作地帯としての特色を持っています。
問2	答え 1 湿った季節風が高い山々に遮られ、盆地内に流れ込む空気が乾燥することで降水量が少なくなるため。	中央高地の盆地では、夏は太平洋側から、冬は日本海側から吹く湿った季節風が、それぞれ周囲の山々を越える際に雨や雪を降らせず。山を越えて盆地側に吹き込む風は乾燥しているため、年間降水量が少なくなります。この気候的制約を克服し、農業用水を確保する手段としてため池が重要な役割を果たしています。
問3	答え 1 冬の豪雪による雪の重みを逃がしやすくするとともに、屋根裏を養蚕の作業スペースとして活用するため	岐阜県の山間部は日本有数の豪雪地帯であり、湿った重い雪が屋根に積もって家屋が倒壊するのを防ぐために、屋根に急な傾斜がつけられました。また、かつてこの地域で盛んだった養蚕（カイコの飼育）を行う場所を確保するため、広い屋根裏空間が作られ、多層構造の住居となっているのが特徴です。これは気候条件と生活の知恵が結びついた文化遺産といえます。
問4	答え 4 山梨県	青森県（東北新幹線・北海道新幹線）、石川県（北陸新幹線）、鹿児島県（九州新幹線）には、それぞれ新幹線の路線と駅が存在します。一方、山梨県は隣接する静岡県を東海道新幹線が通っていますが、山梨県内には新幹線の路線自体が通っておらず、駅も設置されていません。ただし、将来的に「リニア中央新幹線」の駅が設置される予定があることが、地理上の大きな特徴です。
問5	答え 1 ハザードマップ	住民の安全を確保するために、自然災害による被害が予想される区域や、避難場所の位置、避難すべき方向などを具体的に示した地図をハザードマップ（被害想定図）と呼びます。静岡市のような沿岸部を含む地域では、地震に伴う津波の浸水想定を網掛けなどで視覚的に示すことで、迅速な避難行動を促す役割を担っています。
問6	答え 1 標高が高く夏でも涼しい気候を利用して、レタスなどの高原野菜を栽培し、平地の出荷が減る時期に市場へ送る農業。	長野県の野辺山原は標高が1000mを超える高冷地であり、夏でも平均気温がレタスの生育に適した15度から20度程度に保たれます。この涼しい気候を活かして、平地では暑すぎて栽培が難しい夏から秋にかけて野菜を収穫し、出荷時期を遅らせる「抑制栽培」が行われています。これにより、都市部での供給が不足する時期に高い価格で販売することが可能になります。
問7	答え 1 加賀国に置かれた城下町を中心に発展し、現在も歴史的な街並みや伝統産業が色濃く残っている。	金沢は、江戸時代に「加賀百万石」と呼ばれた前田氏の城下町として栄えた都市です。戦災を免れたことから、城を中心とした道路網や用水路、武家屋敷などの歴史的景観が維持されており、それが現代の観光資源や都市のアイデンティティとなっています。他の選択肢にある港町や門前町、宿場町といった起源とは区別する必要があります。
問8	答え 1 周辺に自動車産業が集積しているため、輸出総額が日本一であり、輸出内訳でも自動車やその部品などの関連製品が大きな割合を占めている。	名古屋港の最大の特徴は、背後に控える中京工業地帯、特に愛知県内の自動車産業との密接な結びつきです。完成した自動車だけでなく、その部品やエンジン（内燃機関）といった関連製品を合わせると、輸出全体の約4割に達します。このような特定の産業に特化した大規模な輸出構造が、日本一の貿易額を支える要因となっています。